

10

日本

法隆寺金堂

1993（平成 5）年、法隆寺地域の仏教建造物がユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録され、日本で初めての世界遺産が誕生しました。

現存する世界最古の木造建造物群である西院伽藍、法隆寺のご本尊を安置する金堂には、飛鳥時代に聖徳太子のために造られた金銅釈迦三尊像や薬師如来座像をはじめとした諸像が配されています。

国宝・金銅釈迦三尊像は、日本の宗教史ならびに美術史における最も重要な尊像であり、日本仏教彫刻史における最高傑作と称されます。また、金堂内壁面には仏教絵画の至宝と言すべき壁画が描かれていました。

1949（昭和 24）年、法隆寺金堂が火災に見舞われ堂内の壁画が焼損しました。現在、金堂の扉から中を覗き込むと、格子の向こう側の堂内は、本尊・金堂釈迦三尊像とともに 1970 年代に描かれた再現壁画模写によって彩られています。この金堂壁画には、仏菩薩の着衣に施された陰影や鉄線描とよばれる抑揚をつけない均一な線で描く技法が見られ、中国を経て伝わったインド・西域美術の影響を窺い知ることができます。

本展では、焼損（劣化）した金堂壁画を同素材・同質感で焼損前の状態まで再現（展示は縮小版）、さらには間近で鑑賞することができない釈迦三尊像を 3D 技術を用いて金銅仏で再現しました。欠落した螺髪らほつや白毫びやくごうの復元、さらに左右脇侍の配置転換など飛鳥時代の制作当初の姿に迫る試みをしています。



法隆寺金堂